

2014年9月24日

各 位

J X 日 鉱 日 石 金 属 株 式 会 社
三 井 金 属 鉱 業 株 式 会 社
パ ン パ シ フ ィ ッ ク ・ カ ッ パ ー 株 式 会 社

カセロネス銅精鉱の初荷到着式典の開催について

J X 日 鉱 日 石 金 属 株 式 会 社（社長：大井滋）及び三井金属鉱業株式会社（社長：仙田貞雄）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カッパー株式会社（社長：大井滋、以下「P P C」）は、チリ共和国で運営するカセロネス銅鉱山において生産された銅精鉱の出荷第1船（船名：鉱硫号）が佐賀関製錬所（大分県大分市）に到着したことを記念して、9月22日、同製錬所および大分市内のホテルにおいて式典を執り行いました。

式典には、広瀬大分県知事、釘宮大分市長をはじめ政府関係者、取引先、金融機関、地元関係者など約100名が列席し、大井社長からは、「カセロネス銅鉱山の開発にあたっては標高4,000メートルを超える過酷な環境のもとで幾多の苦労がありました。ついに銅精鉱の初荷が約1ヵ月半の航海を経て、太平洋を越えた日本に到着しました。今後28年の長きにわたり、我が国の銅資源の安定確保に貢献していきます。また当社グループにとっても、国内製錬所で必要な銅精鉱の約半分を自社の鉱山権益により調達できるようになることから、鉱石需給や市場に左右されないより強固な事業基盤が築かれることとなります。」との言葉が述べられました。

カセロネス銅鉱山は100%日本資本による資源開発プロジェクトで、2006年の権益取得から約8年間の開発期間を経て、2013年3月から電気銅を、2014年5月から銅精鉱の生産をそれぞれ開始しました。年間を通じてフル操業となる2015年度には、日本の輸入量の約1割に相当する約15万トン（含有される銅量）の銅精鉱を生産し、その大部分がP P Cの国内製錬所で処理される予定です。また、その高い銅品位は、製錬所におけるより一層の高効率安定操業につながるものと期待されます。

以 上



写真：式典のようす

【お問い合わせ先】

JX 日鋳日石金属株式会社 広報・CSR 部

TEL : 03-5299-7082

三井金属鉱業株式会社 経営企画部 IR・広報室

TEL : 03-5437-8028

パンパシフィック・カッパー株式会社 総務部

TEL : 03-5299-7403

(参考資料)

カセロネス銅鉱山について

1. 所在地

チリ第三州の州都コピアポ (Copiapo) から南東 162km, アルゼンチンとの国境から 15km。
鉱床付近の標高は 4,200m~4,600m。



2. 経緯

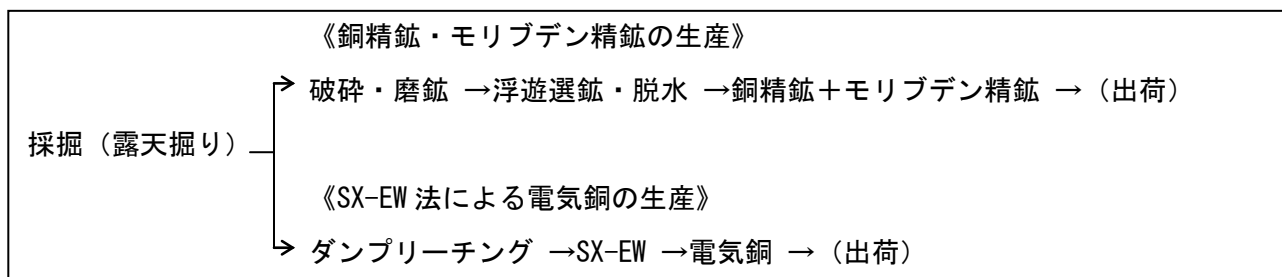
2006年5月	パンパシフィック・銅が権益取得
2008年9月	フィージビリティ・スタディ (FS) へ移行
2010年2月	開発決定、三井物産が資本参加
2013年3月	SX-EW 法による最初の電気銅を採取
2014年5月	銅精鉱の生産を開始
2014年7月	銅精鉱をコキンボ港より初出荷、サンティアゴにて開山式を開催

3. MLC社への出資比率：

パンパシフィック・銅 77.37% (JX日鉱日石金属 66%、三井金属鉱業 34%)
三井物産 22.63%

4. 生産期間： 2013年~2040年 (28年間)

5. 生産プロセス



6. 生産量（見込み）：

（当初 10 年間）

		年平均
銅	銅精鉱（銅量）	約 15 万トン/年
	電気銅	約 3 万トン/年
	合計	約 18 万トン/年
モリブデン		約 3 千トン/年

（28 年間）

		年平均	28 年間合計
銅	銅精鉱（銅量）	約 11 万トン/年	約 314 万トン
	電気銅	約 1 万トン/年	約 41 万トン
	合計	約 12 万トン/年	約 355 万トン
モリブデン		約 3 千トン/年	約 8.7 万トン